OLYMPUS

Your Vision, Our Future

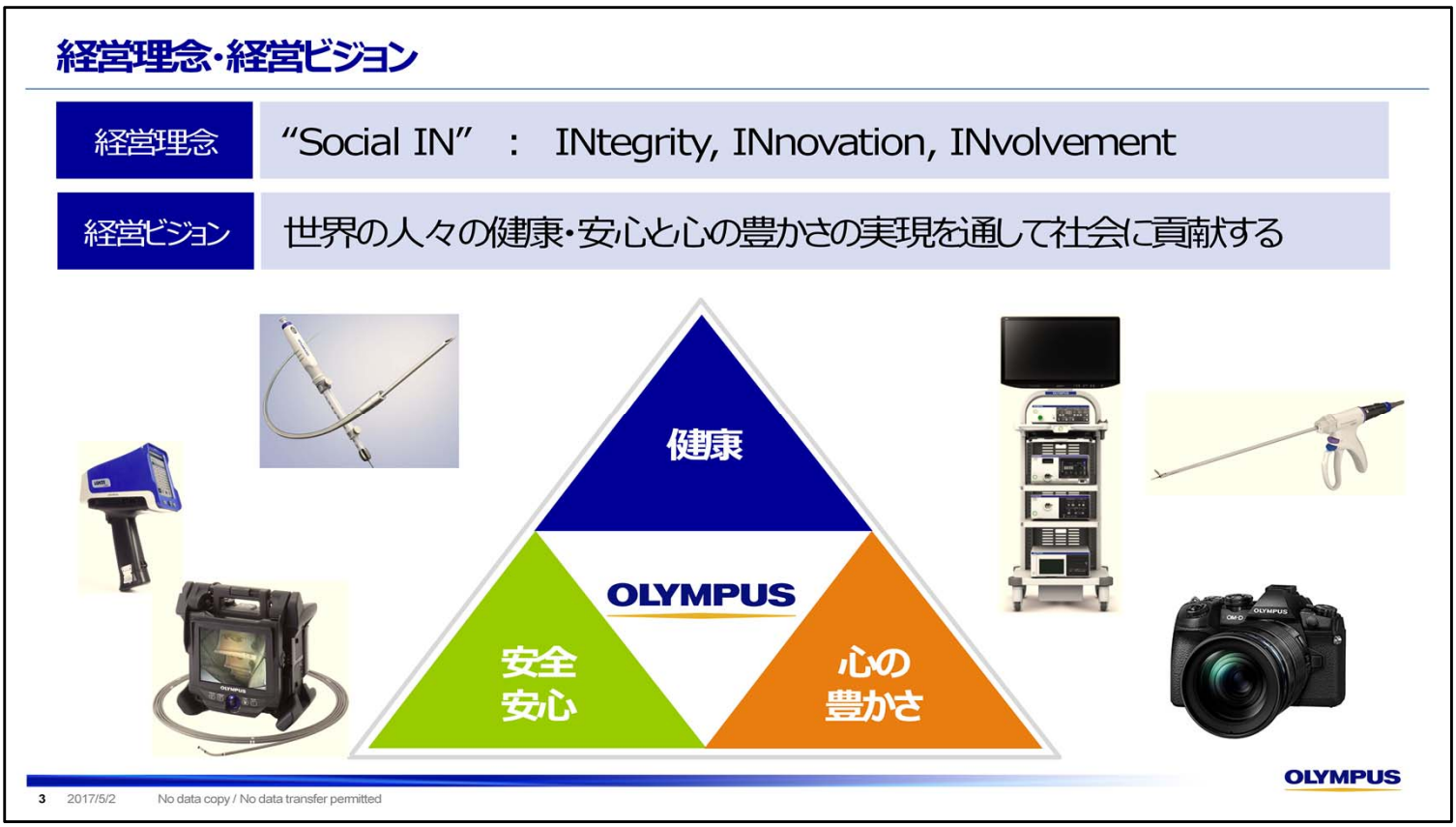
2018年3月期 経営方針

2017年5月2日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員
笹　宏行

免責事項

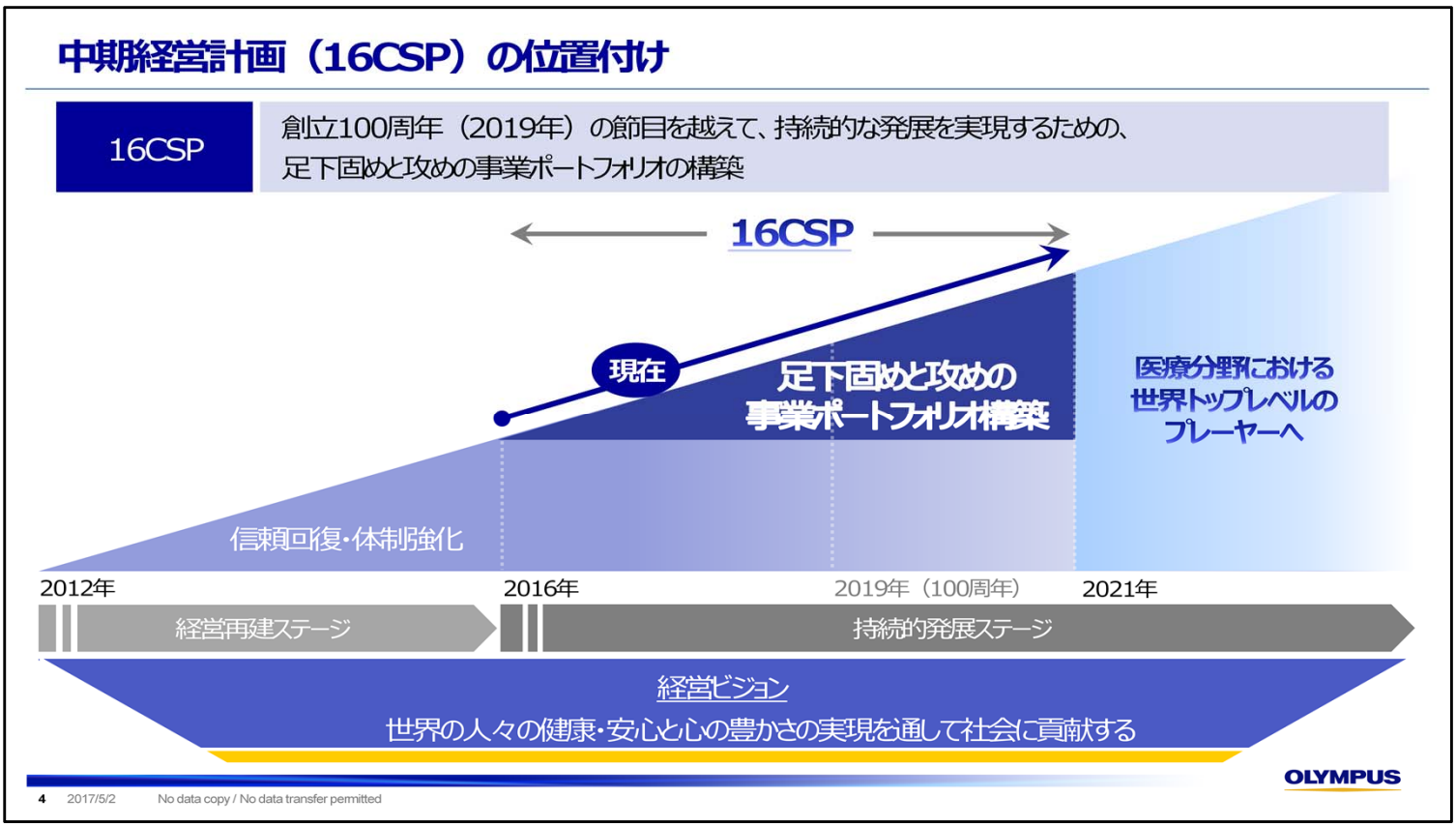
- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

No data copy / No data transfer permitted

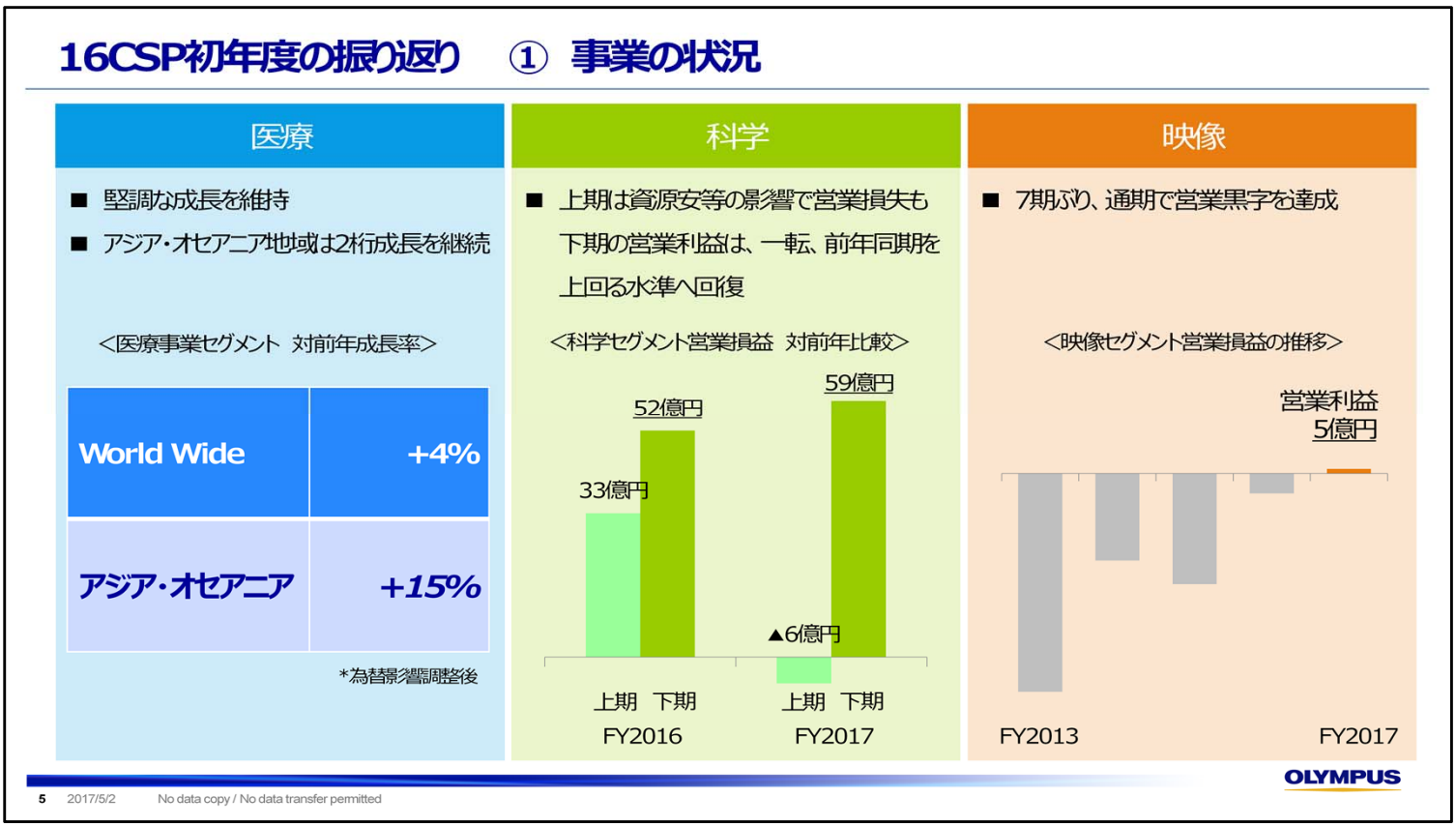


- 経営理念と経営ビジョン

- 経営理念「Social IN」
- 経営ビジョン「世界の人々の健康・安心と心の豊かさの実現を通して社会に貢献する」
- これらに基づいて策定した中期経営計画“16CSP”を2016年3月に公表



- 16CSPにおける長期的な目標＝「医療分野における世界トップレベルのプレーヤー」になること
- 2017年3月期からの5年間を「足下固めと攻めの事業ポートフォリオ構築」の期間と位置づけ
- この期間において、財務基盤を固めるとともに、経営資源を成長事業である医療事業に重点的に配分し、持続的発展を実現するための事業ポートフォリオを構築



- 16CSP初年度（2017年3月期）の振り返り

- 医療事業
- 16CSPの重点施策にも掲げた「新興国市場でのビジネス拡大」を進めてきた効果により、為替影響を除く実質ベースの対前年成長率では新興国でのビジネスが2桁の成長、事業全体でも4%成長

- 科学事業
- 資源安等の影響により上期としては初めて営業損失を計上
- 下期は顕微鏡、工業用内視鏡の販売が好調に推移し、前年同期を上回る営業利益を計上

- 映像事業
- 7期ぶりに営業利益を計上
- 開発、製造、販売のすべてにおいて事業構造改革を継続的に推進してきた成果

16CSP初年度の振り返り　② 主要指標

■ 自己資本比率を5pt高めつつも、16CSPに掲げた「ROE重視の経営」に沿って**ROE**は**19%**へ改善

	2016年3月期（実績）	2017年3月期（実績）	16CSP 経営目標
資本効率性 ROE	17%	19%	15%
事業収益性 営業利益率	13%	10%（為替影響調整後 13%）	15%
事業成長性 EBITDA	+9%	▲16%（為替影響調整後 6%）	期間平均成長率 2桁
健全性 自己資本比率	38%	43%	50%

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- 16CSP初年度（2017年3月期）の振り返り

- 有利子負債の削減など財政状態の改善を通じ、自己資本比率は5ポイント改善の43%
- 2017年3月期を通じて改善してきたROEは特別利益の影響もあり経営目標を上回る19%
- 事業収益性は、為替の影響により営業利益率が3ポイント低下、為替を除く実質ベースでは13%と2016年3月期並みの水準

- 16CSP初年度（2017年3月期）の振り返り

- 6つの重点戦略のうち2つをご紹介

（1）事業成長に向けた積極的な取り組み

- 事業成長を確かなものとするべく、主要3事業において、主力級の新製品を投入し製品ラインアップの拡充

（2）更なる事業効率の追求

- 業務改革プロジェクトをスタート
- 短期的な費用削減を目的とするものではなく、グローバルであらゆる業務プロセスを大胆に見直し、グローバルプレーヤーにふさわしい効率的な体質に変えていくことを目指す
- また、そのような改革意識を、当社の持続的な成長の実現に向け、組織風土として根付かせていく
- 2017年3月期に定めた方針のもと、2018年3月期より実行フェーズへ

2018年3月期の見通し

メガトレンド

- ■ グレートリバランシング　：世界における新興国のプレゼンス拡大
- ■ 少子高齢化　：医療ニーズの増大、医療費抑制圧力
- ■ ICTの発展と普及　：ICTによる産業構造の変化（多様性）

2018年3月期の見通し

- 事業環境のメガトレンドにおける大きな方向性に変化はないものの、欧州の政治リスクや、不安定な中東・東アジア情勢など地政学リスクもあり、世界経済全体としての見通しは不透明

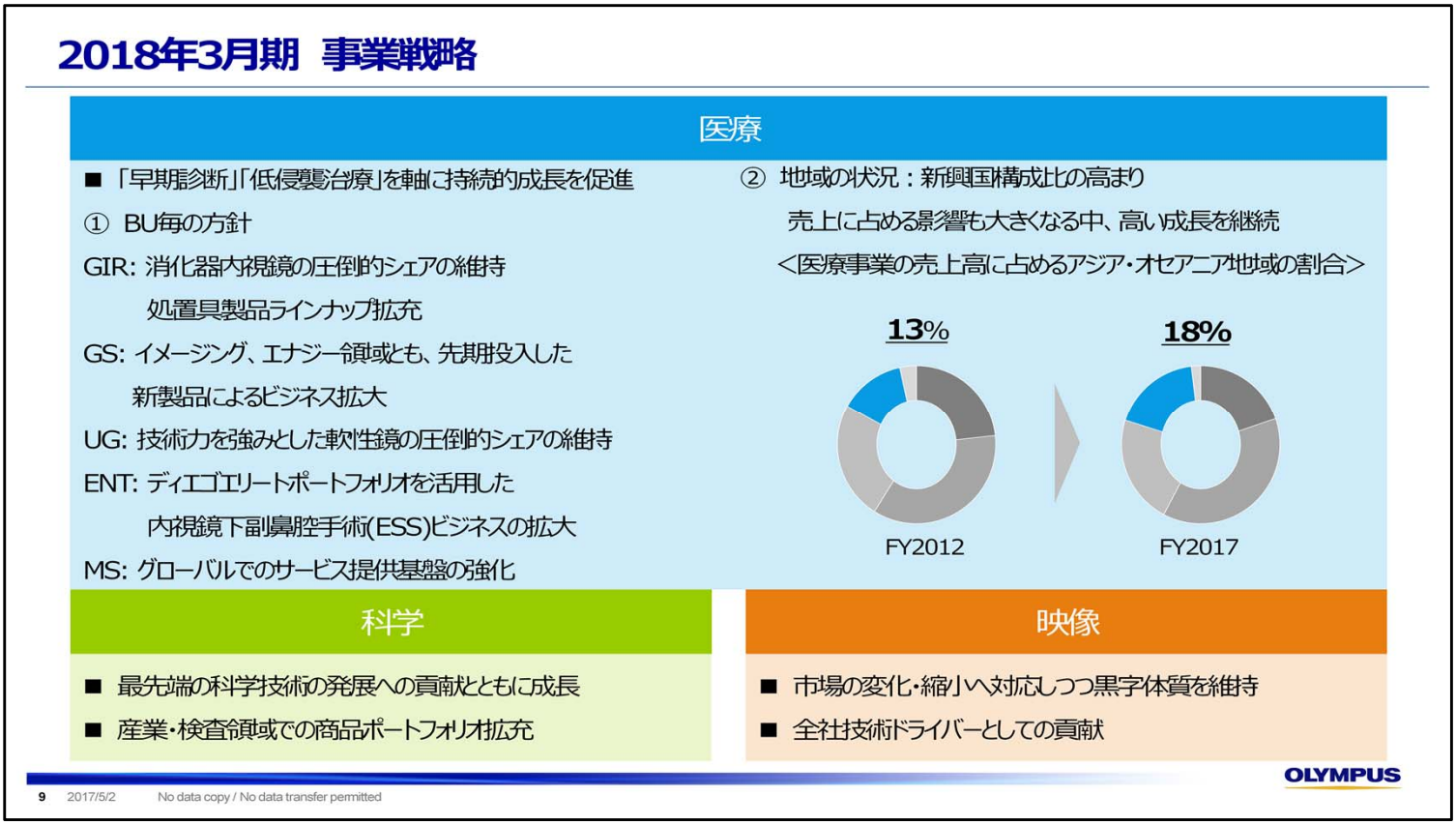
⇒ 16CSPの経営方針に基づき戦略を確実に遂行するとともに、変化への対応力を向上させる
「成長分野への投資」と「業務改革による生産性・効率性の向上」によって持続的な成長を実現

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- 2018年3月期の見通し

- 新興国の成長や少子高齢化といった16CSP策定時にとらえた事業環境のメガトレンドの認識に変化なし
- 一方、足元の世界経済は、政治リスク、地政学リスクに左右される、不安定、不透明な状況

- 当社がやるべきは、16CSPの経営方針に沿って戦略を確実に遂行するとともに、不安定な外部環境への対応力を向上させること
- 将来の成長のために必要な投資は確実に実行する一方で、いまある経営資源を最大限に活用し、業務改革に全社一丸となって取り組み、従業員1人1人の生産性と効率性を高めていくことで、持続的な成長を実現



- 2018年3月期の事業ごとの見通し
- 16CSP事業戦略を事業環境の変化に対応しながら今期も各事業でしっかりと実行

- 医療事業
- 先進国地域において消化器内視鏡の主力システムが発売から5年を経過していることで、成長が緩やかになると見込む
- 一方で、全社の成長ドライバーと位置づける外科分野では新製品を各地域で順次導入
- 強力な製品ラインアップに加え、2017年4月28日に発表したImage Stream Medical社の買収を通じ、同社の事業基盤を得ることで16CSPに掲げた「手術システムインテグレーション」の強化を図り、より良い医療環境を提供するとともに、外科イメージング分野のデファクトスタンダード化を推進
- 外科事業ではこれらの取り組みを通じ、高い成長を見込む
- 地域的には引き続き新興国の拡大による成長を継続

- 科学事業
- 2017年3月期に投入した新製品により拡充したラインアップをもって事業の成長を推進

- 映像事業
- 市場環境は引き続き厳しい中でも先期に続き、しっかりと利益を出していける体制を維持

経営資源配分

経営資源	安定した財務基盤の確保を前提とし、成長分野への投資を優先した上で、適切な株主還元を行う

	2017年3月期（日本基準）	2018年3月期見通し（日本基準）
① 財務健全性	自己資本比率 43%	有利子負債の削減への取り組みにより更に自己資本比率改善へ
② 成長投資	医療事業の国内主要製造拠点の生産能力増強	医療事業におけるグローバル修理・サービス拠点の強化
③ 株主還元	1株当たり配当（予定） 28円（配当性向 12%）	1株当たり配当（予定） 28円（配当性向 19%）

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- 経営資源配分

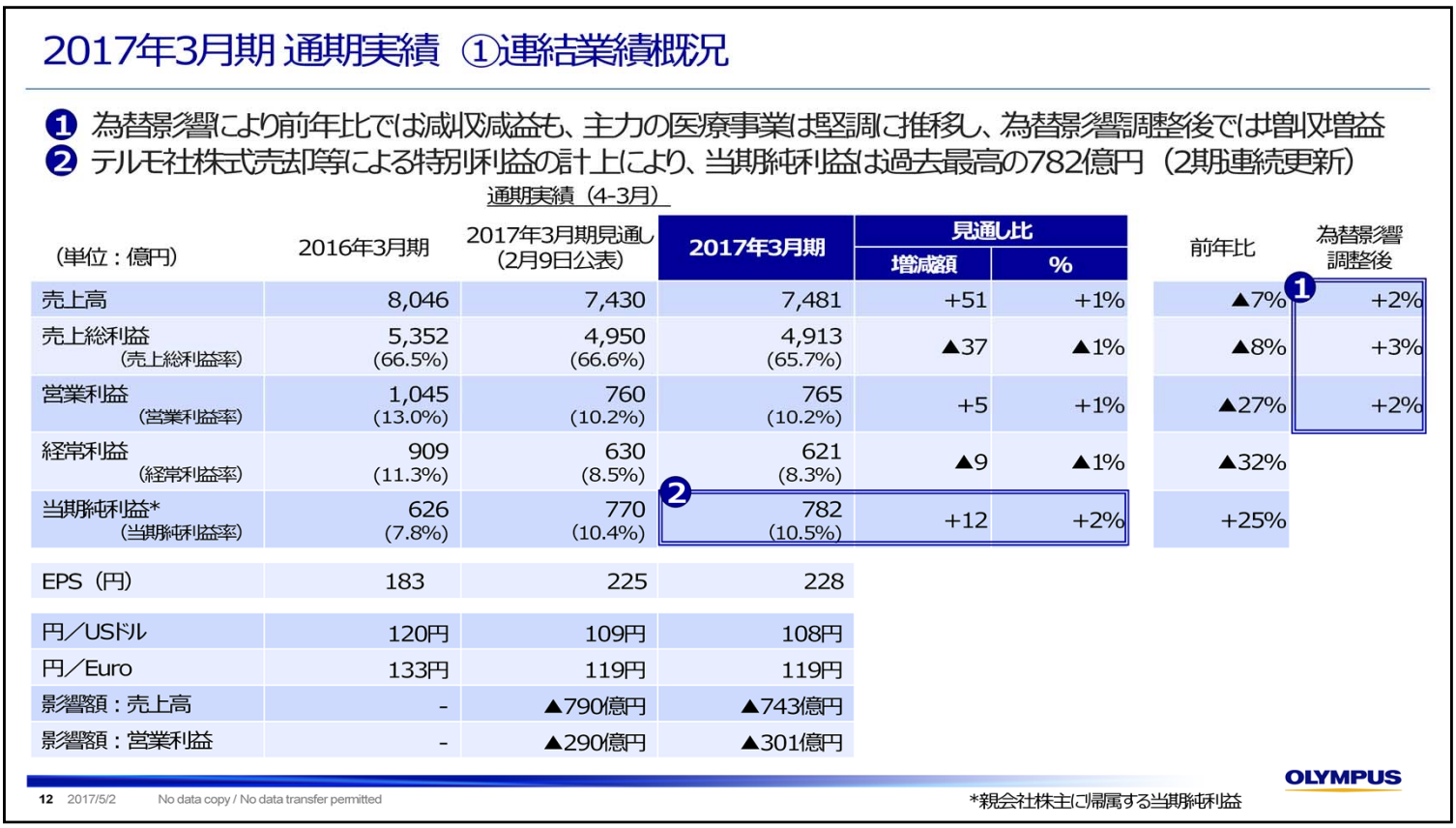
- 16CSPの考え方に沿って、2018年3月期も引き続き財務健全性を高めるとともに、持続的成長のための成長分野への投資を実行
- その上で、16CSPで定めた総還元性向の目安30%を意識しながら株主還元についても実現
- 2018年3月期は当期純利益は減益の見通しだが、経営の総合的な観点から2017年3月期と同額の28円を予定

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 連結決算概況
2018年3月期 通期見通し

2017年5月2日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員　CFO
竹内　康雄



2017年3月期 通期実績 ①連結業績概況

❶ 為替影響により前年比では減収減益も、主力の医療事業は堅調に推移し、為替影響調整後では増収増益
❷ テルモ社株式売却等による特別利益の計上により、当期純利益は過去最高の782億円（2期連続更新）

通期実績（4-3月）

（単位：億円）	2016年3月期	2017年3月期見通し（2月9日公表）	2017年3月期	見通し比 増減額	見通し比 %	前年比	為替影響調整後
売上高	8,046	7,430	7,481	+51	+1%	▲7%	❶ +2%
売上総利益（売上総利益率）	5,352 (66.5%)	4,950 (66.6%)	4,913 (65.7%)	▲37	▲1%	▲8%	+3%
営業利益（営業利益率）	1,045 (13.0%)	760 (10.2%)	765 (10.2%)	+5	+1%	▲27%	+2%
経常利益（経常利益率）	909 (11.3%)	630 (8.5%)	621 (8.3%)	▲9	▲1%	▲32%	
当期純利益*（当期純利益率）	626 (7.8%)	770 (10.4%)	❷ 782 (10.5%)	+12	+2%	+25%	
EPS（円）	183	225	228				
円／USドル	120円	109円	108円				
円／Euro	133円	119円	119円				
影響額：売上高	-	▲790億円	▲743億円				
影響額：営業利益	-	▲290億円	▲301億円				

12 2017/5/2 No data copy / No data transfer permitted

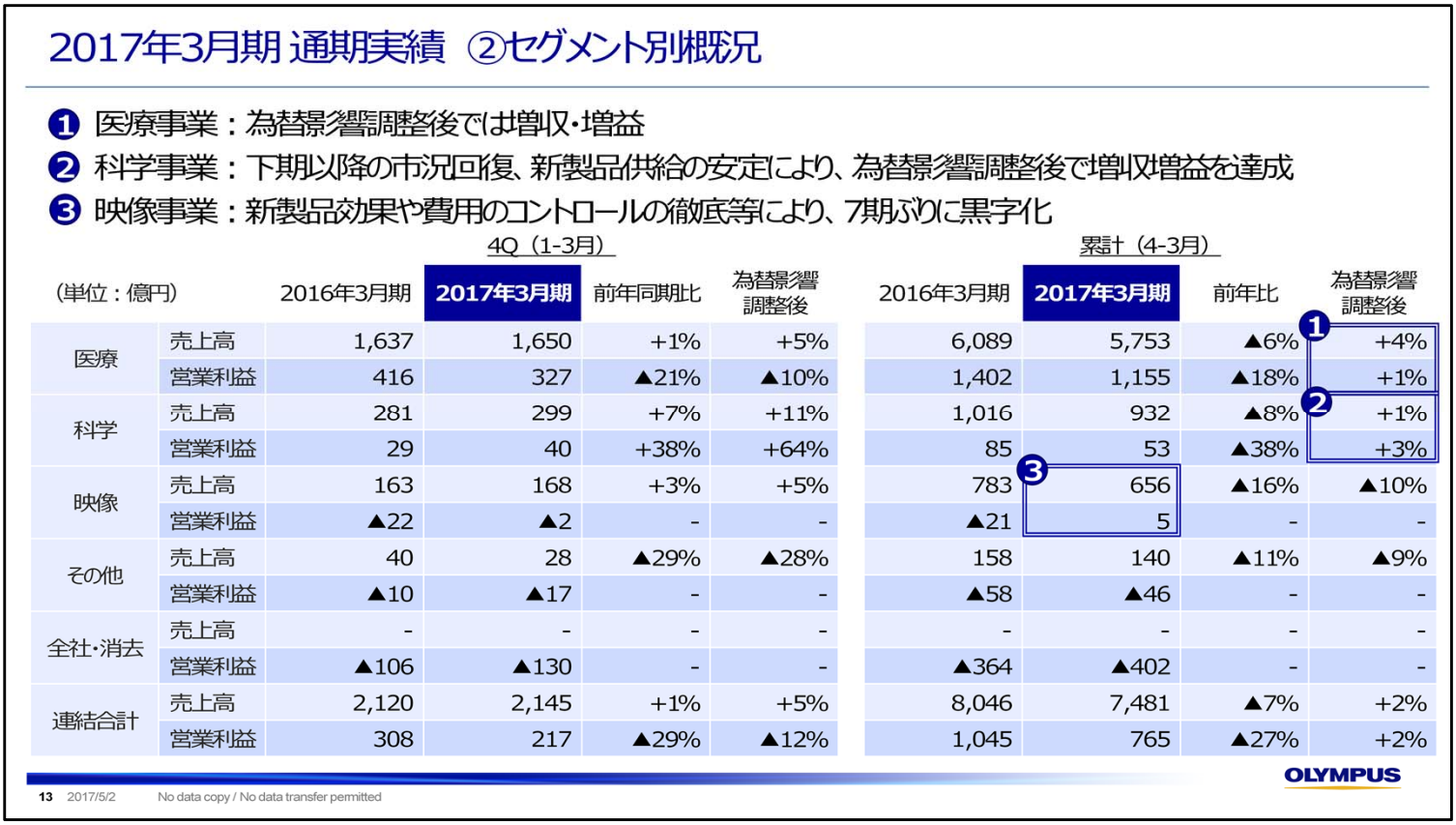
*親会社株主に帰属する当期純利益

- 2017年3月期連結実績

- 売上高　前年対比7%減　7,481億円
- 営業利益　前年対比27%減　765億円
- いずれも為替の円高による影響により減収減益

- 為替を除く実質ベースでは売上高は2%の増収、営業利益は2%の増益

- 当期純利益は782億円と2期連続で過去最高益を更新



2017年3月期 通期実績 ②セグメント別概況

❶ 医療事業：為替影響調整後では増収・増益
❷ 科学事業：下期以降の市況回復、新製品供給の安定により、為替影響調整後で増収増益を達成
❸ 映像事業：新製品効果や費用のコントロールの徹底等により、7期ぶりに黒字化

(単位：億円)		4Q（1-3月） 2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後	累計（4-3月） 2016年3月期	2017年3月期	前年比	為替影響調整後
医療	売上高	1,637	1,650	+1%	+5%	6,089	5,753	▲6%	+4% ❶
	営業利益	416	327	▲21%	▲10%	1,402	1,155	▲18%	+1%
科学	売上高	281	299	+7%	+11%	1,016	932	▲8%	+1% ❷
	営業利益	29	40	+38%	+64%	85	53	▲38%	+3%
映像	売上高	163	168	+3%	+5%	783	656 ❸	▲16%	▲10%
	営業利益	▲22	▲2	-	-	▲21	5	-	-
その他	売上高	40	28	▲29%	▲28%	158	140	▲11%	▲9%
	営業利益	▲10	▲17	-	-	▲58	▲46	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲106	▲130	-	-	▲364	▲402	-	-
連結合計	売上高	2,120	2,145	+1%	+5%	8,046	7,481	▲7%	+2%
	営業利益	308	217	▲29%	▲12%	1,045	765	▲27%	+2%

13 2017/5/2 No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- セグメント別の概況

- 医療事業
- 売上高5,753億円、営業利益1,155億円
- 為替を除く実質ベースでは4%の増収、1%の増益

- 科学事業
- 売上高932億円、営業利益53億円
- 為替を除く実質ベースでは１%の増収、3%の増益

- 映像事業
- 売上高656億円、営業利益5億円
- 7期ぶりの黒字化を達成

連結貸借対照表

■ 投資その他資産　：保有株式売却等により274億円減少
■ 純資産　：当期純利益782億円の計上により純資産は4,309億円
■ 自己資本比率　：有利子負債の削減および利益剰余金の増加により43.3%に上昇

(単位：億円)	2016年3月末	2017年3月末	増減額
流動資産	5,207	5,530	+323
有形固定資産	1,661	1,714	+53
無形固定資産	1,508	1,311	▲197
投資その他資産	1,631	1,356	▲274
資産合計	10,006	9,911	▲96

	2016年3月末	2017年3月末	増減額
流動負債	2,666	2,747	+81
固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	2,855 (2,175)	▲643 (▲470)
純資産	3,843	4,309	+466
(自己資本比率)	(38.2%)	(43.3%)	(+5.1pt)
負債 純資産 合計	10,006	9,911	▲96

有利子負債：2,864億円（2016年3月末比▲348億円）

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

- バランスシートの状況

- 総資産は2016年3月末対比96億円減少の9,911億円
- 純資産は2016年3月末対比466億円増加の4,309億円
- 自己資本比率は約5ポイント改善し43.3%
- 有利子負債は2016年3月末対比348億円減少の2,864億円

連結キャッシュフロー計算書

■ FCF：堅調な事業からの利益の計上やテルモ社株式等政策保有株式の売却による収入により819億円

（単位：億円）	2016年3月期	2017年3月期	増減
売上高	8,046	7,481	▲565
営業利益	1,045	765	▲280
（営業利益率：%）	13.0%	10.2%	▲2.8pt
営業CF	486	902	+416
投資CF	▲ 529	▲83	+446
財務CF	▲ 339	▲442	▲104
キャッシュフロー	▲ 381	376	+758
フリーキャッシュフロー	▲ 43	819	+862
現金及び現金同等物期末残高	1,663	1,994	+331
減価償却費	399	447	+47
のれん償却額	99	86	▲12
設備投資額	644	493	▲151

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- キャッシュフローの状況

- 営業キャッシュフローは前年対比416億円増加の902億円
- 投資キャッシュフローは前年対比446億円増加のマイナス83億円
- 当年フリーキャッシュフローはプラス819億円

2018年３月期 通期業績見通し

No data copy / No data transfer permitted

2018年3月期 通期業績見通し

■ 堅調な医療事業を中心に、前年比3%の増収
■ 将来の成長への投資をしつつも、営業利益段階では前年比3%の増益

(単位：億円)	2017年3月期 (日本基準)	2018年3月期見通し (日本基準)	増減	前年比
売上高	7,481	7,700	+220	+3%
営業利益 (営業利益率)	765 (10.2%)	790 (10.3%)	+25	+3%
経常利益 (経常利益率)	621 (8.3%)	690 (9.0%)	+69	+11%
当期純利益* (当期純利益率)	782 (10.5%)	510 (6.6%)	▲272	▲35%
EPS (円)	228	149	▲79円	
1株当たり配当金 (円)	28	28	-	
配当性向	12%	19%	+7pt	
円／USドル	108円	110円	+2円	
円／Euro	119円	115円	▲4円	

 No data copy / No data transfer permitted

*親会社株主に帰属する当期純利益

OLYMPUS

- 2018年3月期の通期業績見通し

- 業績見通しの想定為替レートは1ドル110円、1ユーロ115円

- 売上高は前年比3%増収の7,700億円
- 営業利益は前年比3%増益の790億円
- 当期純利益は510億円

- 2018年3月期の配当見込みは2017年3月期の配当予想28円から据え置く予定

2018年3月期 セグメント別業績見通し

- 医療事業：引き続き全社業績を牽引
- 科学事業：厳しい事業環境の中、増収増益を確保
- 映像事業：減収も、更なる事業効率の向上、費用のコントロールの徹底により黒字体質の定着へ

(単位：億円)		2017年3月期 (日本基準)	2018年3月期見通し (日本基準)	増減	前年比
医療	売上高	5,753	6,010	+257	+4%
	営業利益	1,155	1,190	+35	+3%
科学	売上高	932	950	+18	+2%
	営業利益	53	55	+2	+4%
映像	売上高	656	650	▲6	▲1%
	営業利益	5	10	+5	+101%
その他	売上高	140	90	▲50	▲36%
	営業利益	▲46	▲50	▲4	–
全社消去	売上高	-	–	–	–
	営業利益	▲402	▲415	▲13	–
合計	売上高	7,481	7,700	+220	+3%
	営業利益	765	790	+25	+3%

 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の業績見通し

- 医療事業
- 売上高は前年対比4%の増収、営業利益は3%の増益を見込む

- 科学事業
- 売上高は前年対比2%の増収、営業利益は4%の増益を見込む

- 映像事業
- 売上高は前年対比1%の減収、営業利益は10億円の黒字を見込む

2018年3月期見通し（IFRS）

（単位：億円）	2018年3月期 見通し （日本基準）	2018年3月期 見通し （IFRS）	差異	主な差異項目
売上高	7,700	7,660	▲40	①一部販促費の控除：▲30億円
営業利益	790	790	－	②科目組替：▲40億円 ③のれん非償却：+80億円 ④開発費の償却の増加：▲30億円 ⑤退職給付計算変更：▲20億円
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	690	720	+30	③、④、⑤による影響
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	510	550	+40	③、④、⑤による影響および日本基準との差異に関連する税金費用の調整
配当性向	19%	17%		

No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 2018年3月期の見通しを日本基準とIFRS基準とで比較

- 当社グループでは、2018年3月期より財務情報の国際的な比較可能性の向上とグループ内の経営管理精度向上の目的からIFRSを任意適用します。
- 当社グループの連結決算上、日本基準との差異としては、いくつか処理の違いがあるものの、「のれん」の償却がなくなるという点が主な差異になります。
- ただし、一会計期間だけで見ますと、のれんの償却以外にも開発費の資産化と償却などの処理で認識のタイミングのずれから一時的なプラス・マイナスが生じることがあります。
- なお、日本基準で営業費用に含まれない営業外損益や特別損益のうち、金融収支以外の取引がIFRSでは営業費用に含まれることになりますが、これは段階利益の間の組み替えになるため当期利益には影響しません。
- いずれにしましても2018年3月期の当期利益においては、「のれん」の償却費がなくなることや開発費の償却の影響等が日本基準との差異になります。

OLYMPUS

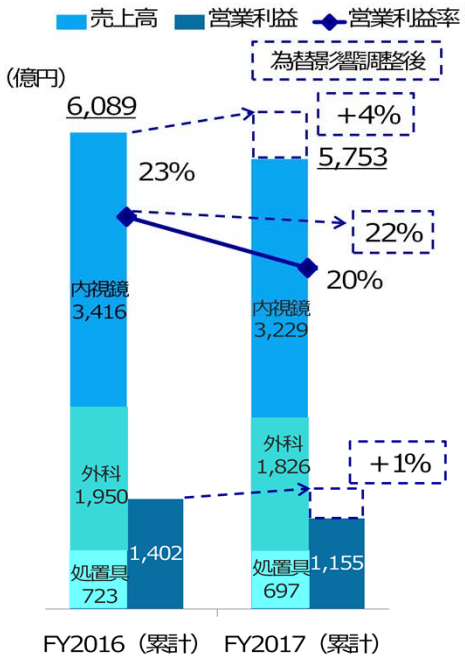
【参考資料】 IFRS移行に伴う開示スケジュール

	日本基準	IFRS
2017年5月2日	2017年3月期決算短信※1	–
2017年6月	2017年3月期有価証券報告書	–
2017年8月	–	2018年3月期第1四半期報告書 2018年3月期第1四半期決算短信※2

※1 2018年3月期業績予想は日本基準とIFRSの両方で開示
※2 2017年3月期実績のIFRS数値は、2017年8月の2018年3月期第1四半期決算発表時に公表

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】 2017年3月期 通期実績 医療事業



実績数値

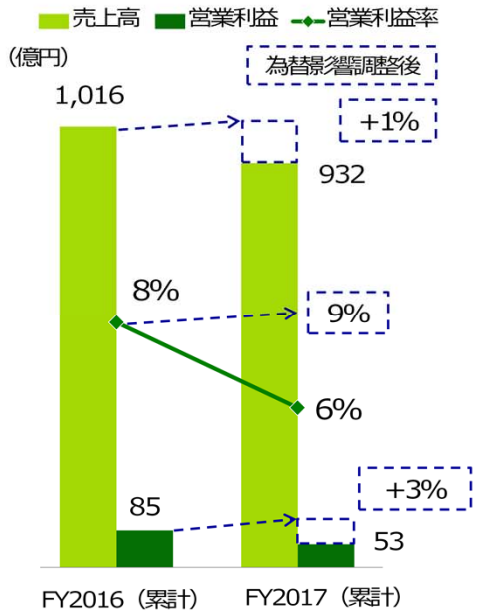
(単位：億円)	4Q（1-3月） FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	累計（4-3月） FY2016	FY2017	前年比	為替影響調整後
売上高	1,637	1,650	+1%	+5%	6,089	5,753	▲6%	+4%
内視鏡	933	937	+0%	+5%	3,416	3,229	▲5%	+4%
外科	522	531	+2%	+6%	1,950	1,826	▲6%	+4%
処置具	183	182	▲0%	+2%	723	697	▲4%	+4%
営業利益	416	327	▲21%	▲10%	1,402	1,155	▲18%	+1%
営業利益率	*25%*	*20%*	-	*22%*	*23%*	*20%*	-	*22%*

■ 将来への成長に向けた研究開発等の投資を着実に実施しつつも、
為替影響調整後では全分野とも前年対比で増収・増益

内視鏡	アジア・オセアニアで２桁成長を継続
外科	エネルギーデバイス「サンダービート」の販売が主要地域で2桁成長と好調に推移
処置具	販売体制強化およびラインアップ拡充により、日欧米で順調な伸び

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】 2017年3月期 通期実績 科学事業



実績数値

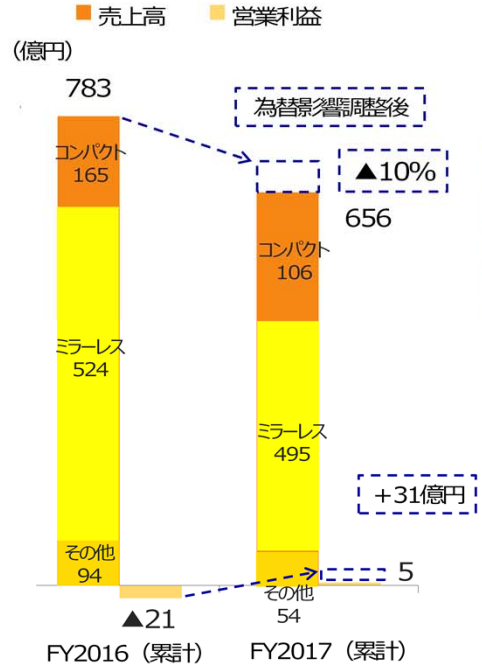
(単位：億円)	4Q（1-3月） FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	累計（4-3月） FY2016	FY2017	前年比	為替影響調整後
売上高	281	299	+7%	+11%	1,016	932	▲8%	+1%
営業利益	29	40	+38%	+64%	85	53	▲38%	+3%
営業利益率	*10%*	*13%*	-	*15%*	*8%*	*6%*	-	*9%*

■ 第4四半期においては、資源関連や製造業の一部市場で投資改善が見られる等、外部環境の改善があったことに加え、新製品の供給が安定してきたことで前年同期比で増収・増益を達成

■ 為替影響調整後では売上高・営業利益ともに前年対比で増収・増益

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】2017年3月期 通期実績 映像事業



実績数値

(単位：億円)	4Q（1-3月） FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	累計（4-3月） FY2016	FY2017	前年比	為替影響調整後
売上高	163	168	+3%	+5%	783	656	▲16%	▲10%
コンパクト	30	17	▲44%	▲45%	165	106	▲36%	▲31%
ミラーレス	114	139	+22%	+25%	524	495	▲5%	+2%
その他	20	12	▲38%	▲36%	94	54	▲43%	▲37%
営業利益	▲22	▲2	+19億円	+20億円	▲21	5	+26億円	+31億円

■ フラッグシップモデルの新製品投入効果に加え、ミラーレス一眼の既存製品の販売価格が堅調に推移したこと、費用のコントロールの徹底により、7期ぶりに営業黒字を達成

■ 在庫・費用についても引き続き適正にコントロール

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】 2018年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

（単位：億円）	2017年3月期（日本基準） 上期	2017年3月期（日本基準） 下期	2018年3月期見通し（日本基準） 上期	2018年3月期見通し（日本基準） 下期	前年同期比（%） 上期	前年同期比（%） 下期
売上高	3,500	3,981	3,680	4,020	+5%	+1%
営業利益 （営業利益率）	344 (9.8%)	421 (10.6%)	340 (9.2%)	450 (11.2%)	▲1%	+7%
経常利益 （経常利益率）	288 (8.2%)	333 (8.4%)	300 (8.2%)	390 (9.7%)	+4%	+17%
当期純利益* （当期純利益率）	222 (6.3%)	560 (14.1%)	230 (6.3%)	280 (7.0%)	+4%	▲50%

No data copy / No data transfer permitted

*親会社株主に帰属する当期純利益

【参考資料】 2018年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

（単位：億円）		2017年3月期実績（日本基準）		2018年3月期見通し（日本基準）		前年同期比（%）	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,718	3,035	2,850	3,160	+5%	+4%
	営業利益	566	589	540	650	▲5%	+10%
科学	売上高	402	530	460	490	+14%	▲8%
	営業利益	▲6	59	20	35	-	▲41%
映像	売上高	298	358	320	330	+7%	▲8%
	営業利益	▲14	19	10	0	-	-
その他	売上高	82	58	50	40	▲39%	▲31%
	営業利益	▲20	▲26	▲30	▲20	-	-
全社・消去	売上高	–	–	–	–	--	-
	営業利益	▲182	▲220	▲200	▲215	-	-
連結合計	売上高	3,500	3,981	3,680	4,020	+5%	+1%
	営業利益	344	421	340	450	▲1%	+7%

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS

【参考資料】 医療事業BU別目標CAGR ※16CSP発表時

BU		市場規模（億円）	CAGR	
			市場	当社
GIRBU（消化器科呼吸器科事業）	内視鏡	3,500～3,700	4～6%	7%
	処置具	3,700～3,900	4～6%	
GSBU（外科事業）	外科イメージング	2,600～2,900	2～4%	11%
	エネルギー	1,600～1,800	3～5%	
UGBU（泌尿器科婦人科事業）	泌尿器科	1,700～1,900	2～4%	8%
	婦人科	200～300	2～4%	
ENTBU（耳鼻咽喉科事業）	咽喉科	150～170	4～5%	13%
	鼻科	220～240	4～5%	
	耳科	50～70	1%以下	
MSBU（医療サービス事業）	-	-	-	5%
合計	-	-	-	8%

No data copy / No data transfer permitted
OLYMPUS